

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家平岸 しらかば		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	令和5年6月30日	評価結果市町村受理日	令和5年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願い、信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170501795-00&ServiceCd=320
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年7月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りの際や日常の中で理念について取り上げて触れる機会がある。各自、改めて理念について考えるきっかけになっている。真剣に考え、理念を叶えることは難しいといった意見も聞かれた。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により地域の活動や町内会の行事参加はできなかったが、隣人から頂きものをしたり、何かあれば声を掛けて頂くなど交流が持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催した時には地域の方から質問を受けることも多かったが、コロナ禍の中、主に家族へ認知症の方との向き合い方について話す機会が多かった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で集まる機会は現在無いが、家族とは面会時などに報告したり、意見を頂いている。町内の方から電話を頂くこともあった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が窓口となっている。区役所の保健福祉課や保護下の担当者と密に連絡を取り合い連携している。困難事例について、解決に向けて大きな協力を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員はユニット会議を利用して2か月に1度「身体拘束廃止適正委員会」の項目ごとに研修を行っている。「身体拘束」「不適切なケア」を理解し入居者のケアを行っている。特に不適切なケアに当たらないよう、日々気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他階で職員による利用者への身体的虐待行為があった。当ユニットでも心理的虐待に当たる言葉かけにならないよう、利用者への言葉掛けの際は尊厳を守るべく言葉を選んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要とする利用者があり、現在手続き中の方がいる。制度について深く理解していない職員が多いのが現状のため、この方をきっかけにして学ぶ機会としていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が窓口となっている。見学時と入居前にご家族様の不安な事を洗い出し、十分に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主にタブレット端末を使用しご家族とメールでのやり取りや電話で、ご家族の意見、要望をくみ取っている。ご本人からは日頃の会話から思いを汲み取り、反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも誰もが自身の思いを述べることができるよう管理者と本部は連携している。反映できる事柄は直ぐに実行され、時間を要することに対しても反映できるよう改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新型コロナウイルスの影響により本社での会議が行えていないが各職員には毎月のユニット会議前に「業務内での意見、要望」を書類で提出してもらい、業務への反映、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響で外部研修への参加が乏しいが、毎月タブレットを使用した内部研修を行い、各職員のスキルアップに取り組んでいる。又、「初任者研修」等、資格取得を目指すスタッフの後押しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、ごく最近ではあるが他事業所の運営推進会議に参加し、交流する機会が増えつつある。以前までは主に電話でやり取りしながら交流する機会としていた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者が決まると、主に管理者、又はユニットリーダーが面談で不安な事、要望等の聞き取りを行い、少しでも不安要素が減らせるような対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでは無く、ご家族様が不安に思っている事、要望等を十分に聞き取り、事前に解決出来ることがあれば速やかに対応し、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報やご本人とご家族との面談を行った上で「どのような支援を必要としているのか」を決定し、優先順位を見極めケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴を調査し、「出来る事」「やりたい事」を取り入れ、役割を持ってホームで生活できる環境になるよう働きかけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響によりご家族の面会は控えているがタブレットを使用し、リモート面会を行っている。メールでもご本人の近況報告を行い、ご家族の様子も伺っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響前より「馴染みの人」の面会は少ないが、ドライブで札幌市内や「馴染みの場所」を回り、昔の記憶を引き出せるように支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しく入居された方との間でトラブルは有ったが、直ぐに打ち解け、現在では協力しあう様子が見られている。又、他者の干渉を嫌う入居者も職員が仲介し、一定の距離を置いた場所から参加され、入居者同士の関係が保てている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時は相談相手になるなど、今までと変わらない対応を行っている。ホームで使用できるものなど頂くこともあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で食べたい物、行きたい所、やりたい事等を聞き取った時は、食事で提供し、ユニットの行事で車窓から眺めるドライブ等に反映し、入居者の要望に応じられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄の生活歴をご家族や支援相談員から聞き取りをし、それまでの習慣をホームでの生活にも取り入れることができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースがあり、入居者が自由に過ごせるよう、過度な干渉は行わず、さりげなく適度な距離で見守りを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、生活を送るうえで、毎月のユニット会議の中で話し合いを行い、又、ご家族からも意見を伺い、本人の現状に適したケアプランに随時変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う言動が見られた時は、介護経過記録へ記載したうえで様子を観察し、職員間で情報を共有し、ケアプランの変更につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主に福祉用具などのサービスを利用することが多かった。個人にあった用具の選定等で協力してもらった場面が多かった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により町内会の行事などに参加する機会が無くなってしまったが、個人の希望する行事への参加を促していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療を受けている。家族や本人の希望がある時は他病院の受診もご家族の付き添いの協力を得て受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護において、看護師に相談し、適切なアドバイスを受けることができている。慣れない処置の方法など指導を受ける場面も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が窓口となり、日常の様子や薬情報などを医療機関に情報提供している。本人の様子をこまめに病院関係者と連絡を取り合い、早期退院に向けて情報を交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の意向を確認し、クリニックのドクターを交えて終末期の希望を伺い、ホームでの生活を送りながら医療機関と情報を共有し、連携しながら支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の事故発生時や体調急変時に対応する為、「緊急対応ファイル」を製作し、職員は常に観覧が出来る様になっている。定期的な訓練は行えていないが、初期対応のスキルは出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災を想定した避難訓練は行っているが、勤務の関係により新しい職員に対して訓練回数が少ない。又、コロナ過により地域住民の参加も行えていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者は「人生の先輩」である事を念頭に置き、押し付けではなく、自身で選択して頂けるように、お互いを尊重しながら介助を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの問い掛けだけにとどまらず、三者、又は二者択一で自己決定が出来、ご本人の希望に沿えるように介助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務だけを優先せず、入居者の希望、意見を取り入れ、職員間で情報を共有し、希望が取り入れられた日常生活が送れるように対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出行事の時は、お気に入りの洋服を選んで頂いたり、ユニット内の行事で美顔パックやお化粧品、マニキュアでおしゃれをする支援を行い、好評を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一度の食事で複数の好みの食事は提供出来ないが、数日に分けて提供し、好評を得ている。コロナ過により食事の準備は行っていないが、片付けは率先して行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、塩分やカロリー制限の利用者はいない為、全員に同じ食事を提供している。嚥下状態に個人差がある方には粗刻みやミキサー食等、個別に対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助の利用者の方で、その時々によって拒まれることもあり、時間を置いて介助を行うなど工夫しながら行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ外しには至らないが、排泄表を活用し、定時にトイレ誘導を行い、トイレ内での排泄に繋ぐ事が出来ている方が多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1200ccを目標として水分を摂取していただき、起床時に牛乳を提供する事で排便を誘発している。ユニット内での軽い運動を勧めて便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めていないが利用者の体調等を見て入浴して頂けるように支援を行っている。又、自力歩行が困難になり、車椅子利用の入居者にはベッド上での全身清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を把握し、日中はぬり絵やパズル等の活動を支援し、夜の安眠に繋ぐ事が出来ている。年齢や体調を考慮し、自室での1~2時間程の静養を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬報は「バイタル表」に綴り、全職員が薬の作用、副作用について目を通し、把握出来るような状態になっている。又、薬に変更があれば申し送りノートに記載し、全職員に周知するように対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣やご本人の「やりがい、張り合い」等、個人が希望する家事活動に参加して頂き、楽しみや気分転換が行える様に支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により、ご家族や地域住民との交流はほとんど行えていない。行事でも「車から降りないドライブ」のみの実施となっているが、春先に花壇のチューリップや花を鑑賞する為に個別に対応を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で金銭を所持している利用者はいない。又、新型コロナウイルスの影響により、買物等の行事も行えていないため実際にお金に触れる機会を作ることができなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことができる方が少なくなってきた。特定の利用者ではあるが、タブレットを使用したりリモート面会を取り入れ、画面越しに面会し、喜ばれていた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にも手伝いをして頂きながら掃除を行い、環境整備に取り組んでいる。又、職員も声掛けの際は声のトーンに気を付け、ゆっくりと話しかけている。奥の居室前に風呂場があり、洗濯中の音が居室に届かないよう、風呂場の扉を閉める等の対応を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのTV前にソファを配置し、利用者同士で会話を楽しむ方、新聞を読む方、テレビを見る方、ぬいぐるみを可愛がる方と、皆思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具をお持ちになり、利用者が自身で写真立てや置き時計等の配置を行い、壁には動物のカレンダーや演歌歌手のポスターを掲示し、自分の部屋である事で居心地良く過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前に利用者の表札を掲示し、自分の部屋である事が分かるように配慮を行っている。廊下に手摺りが設置され、歩行が不安定な方には使用するよう声掛けしている。		